

平成26年度決算審査

予算決算常任委員会（副委員長 山田 勇）

平成26年度伊達市歳入歳出決算審査を9月24日、25日、28日の3日間、予算決算常任委員会を開き質疑を行い、全員一致で認定しました。

平成26年度一般会計は当初予算で7億3,500万円の収支不足を財政調整基金からの繰り入れでスタートしましたが、最終的な決算では市税が前年度決算調停額に較べて約7,400万円増(法人市民税が約5千万円増)となったことなどにより7億4,700万円の黒字

となりました。また市債(借金)の総額は、前年度より約12億2千万円減少の295億8千万円となりました。

こうした結果から財政運営は概ね良好な決算となりましたが、未収金や不納欠損など監査委員からも厳しい指摘を受けているところもありますので、今後も収納対策をしっかりと図ることと歳出抑制など財政健全化の推進を図る必要性を議会では質疑を通して訴えました。

PickUp!! 決算

委員会での質疑の一部をピックアップしました。

145灯 LED防犯灯の新設

議会では省エネへの取り組みとしてLED導入が各議員から意見として出されています。その結果として防犯灯のLED化が進んでいます。26年度は新設が145灯となりましたが、まだ全体の20%程度となっていますので、引き続き要望を行っていきます。特に公共施設の管理計画も策定されますが、ランニングコストとなる光熱費の削減は大事な取り組みです。防犯灯に限らず街路灯や公共施設でもLEDを積極的に活用することが求められています。

21人 がん発見

受診率が低調(20%前後)な各種「がん検診」ですが、26年度は健診受診者の中で21人からがんが見つかりました。がんは早期発見が何よりです。伊達市議会では「がん対策推進条例」が議員提案され条例制定に向けて作業が進んでいます。働く世代の方の「がん健診」受診率が向上することやがんを巡る情報提供をしっかりとしていくことを目指していきます。

125万人 だて観光物産館の入館者数

前年度99万人だった物産館入館者は26年度125万人となりました。道の駅としての評価も上々です。売上げも好調なので当初予定していた指定管理料も減額となっています。議会では、単に儲けるための施設ではなく、新規就農者を育てることや農畜産物の品質向上への取り組みにつなげてほしいという意見が出されています。

6,125人 75歳以上の高齢者数

平成26年度の75歳以上の市民は6,125人(人口比17%)。人口は減少傾向ですが、高齢者の割合は当然高くなっていきます。介護認定者もそれにあわせて増加傾向で、要支援1から要介護5までの認定者は2,149人。介護保険の実質的な歳出も前年度比約7,000万円増の30億7,899万円となりました。ますます介護予防事業やがん健診をふくめた健康診断など健康寿命をのばす取り組みが必要です。

10万6千人

26年度に新設されたプール・トレーニング室のべ利用人数は10万6千人。隣接する総合体育館は11万人。ますますの利用者数ですが、問題はこれからです。子供たちのための施設でもあり、大人の健康増進の施設でもあります。特に医療費が増加していることから健康寿命をどうやって伸ばしていくかが課題です。光熱費を含めた管理コストはふたつの施設で合わせて1億円を超えました。収支バランスも厳しくチェックしていきますが、公共施設は市民の健康に役立って、それが成果としてあらわれてくれることが何よりです。是非皆さん利用してください。

2,111万円の減収

伊達市の水道事業会計は毎年黒字です。これは北海道電力火力発電所が大口利用者として水道を使ってくれている点が大きな要因となっています。もし火力発電所がなかったら、多分水道料金はもっと高く設定しないと成り立たないでしょう。26年度決算では、その大口事業者の利用が減少したことによって2,111万円の減収となりました。今後も北電全体の経営内容によっては大きな影響を受けないとも限らないので、更なるコスト削減や未収金対策、不納欠損を出さない日頃の取り組みが求められています。

7,986名 広域による夜間休日等に入院を必要とする重篤患者の受け入れ人数

夜間休日の重篤患者への対応は伊達、室蘭、登別、洞爺湖町の広域7病院で対応しています。その負担金が600万円毎年計上されています。26年度は7,986名の利用があり、その内西胆振消防の救急車が収容した患者は2,290名で、伊達日赤病院が診療した患者は927名となりました。この他に夜間休日の急病患者への医療確保のために市は3,782万円を拠出。この年3,353名の利用がありました。